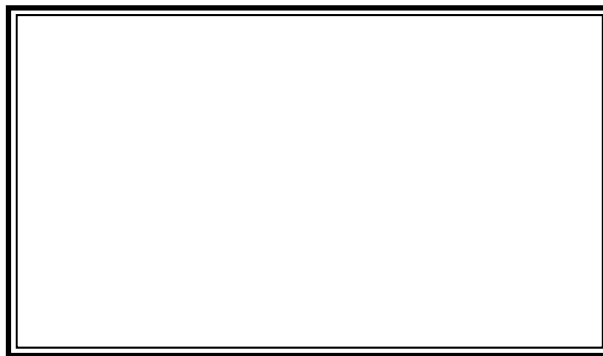


宛先



ニューズレター

低平地研究会 (LORA) , 国際低平地研究協会 (IALT)

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

No.71

平成24 (2012) 年12月14日

平成24年度 第2回 月例勉強会開催報告



10月11日(木)に第2回月例勉強会を開催しました。参加者は34名。山本佳久氏(国交省九州地方整備局武雄河川事務所)に「佐賀平野大規模浸水危機管理計画」という議題を提供していただきました。

武雄河川事務所では高潮と内水氾濫に関する解析を行い、その対策とハザードマップなどによる住民への情報周知を行っています。佐賀では今年7月に豪雨による内水氾濫が起きたこともあり、参加者との間で活発な議論が交わされました。

歴史専門部会 開催報告

見学会「城館跡・環濠集落を巡る」

11月16日(金)、佐賀県神埼市の環濠集落を回りました。参加者は会員参加者を含め20名。当地には、城跡の伝承を持つ8カ所を含む35カ所の環濠集落が点在しています。今回はそのうちの、(1)姉川城跡、(2)横武城跡、(3)直鳥城跡、の3カ所を見学しました。

(1)(2)は旧神埼町、(3)は旧千代田町にあります。当日は幸い晴天に恵まれ、充実した見学会となりました。最後になりましたが、神崎市教育委員会の堤安信氏、桑原幸則氏には、書面をかりてお礼申し上げます。

地域デザイン専門部会 開催報告

講演会「次世代の公共空間を問う」

縮減時代の今日、地方における公共空間の役割はますます重要になっています。このような状況を受けて、当部会では11月28日(水)に講演会を行いました。

第一部では、小泉秀樹氏(東京大学・准教授)から超高齢化社会を睨んだ東日本大震災後の復興支援、赤松佳珠子氏(建築家)から公共の場としての小学校の可能性、脇山芳和氏(大牟田市副市長)から大牟田市の中心市街地をそれぞれ紹介していただき、次世代、すなわち超高齢化社会だからこそ必要になる公共空間の必要性とそのあり方について議論しました。第二部では、その一つとなりうる小学校を対象とした佐大都市工学科3年生作品の発表と講評を行いました。



(写真上)地域デザイン専門部会・講演会の様子

(写真右)環濠集落「神埼の城館跡と環濠集落」神崎市 2008年より転載



低平地研究に関する豆知識 - その 8 -

「環濠集落」

佐賀平野の農村風景の特徴として、堀に囲まれた「環濠集落」があります。佐賀平野東部に位置する神埼市には、環濠集落・低平地城館跡の所在が確認されています。その時期は14世紀前半まで遡るといわれ、分布域は、現在の城原川西岸から中地江川間に密集しています。佐賀平野は、地質的に有明粘土層と蓮池層が堆積しており、同研究では「クリーク」の分布域北限と有明粘土分布北限がおおむね一致することが確認されています。このような湿地地形のなかで、同環濠集落は、14世紀に形成され始めた低平地城館や農村集落として位置づけられています。佐賀県および神埼市の調査により、姉川城跡をはじめ9カ所の城館跡、26カ所の環濠集落や遺跡が確認されています。また環濠集落、低平地城館には現在も「城」・「館」・「屋敷」といったシコ名が残っており、今後の調査研究が期待されます。（吉田洋一）

スタッフの離任と着任

4月1日から外国人客員教授としてお招きしていた Sanaga Srinivasulu 博士が9月30日に任期を終え、帰国されました。これに伴い、11月16日から翌年3月29日までの任期で、A. K. Torry Dundu 博士が外国人客員准教授として着任されました。滞在中は主に、海岸域のハザード管理に関する研究に従事されます。

また、9月30日付で原弘行センター講師が離任され、同年10月1日より山口大学大学院理工学研究科にて助教として勤務されています。後任として、10月1日からは Suman Manandhar 博士が着任されました。2年間の任期中に土の締固め特性やラフト&パイル基礎に関する研究に従事されます。



Dundu 博士



Manandhar 博士

低平地研究会活動内容・日程の案内

第3回 低平地月例勉強会

日時：平成25年2月8日(金) 15:00~16:30
 場所：佐賀県自治会館4階大会議室
 議題：二線堤の防災機能評価について
 議題提供：堀部耕二氏（佐賀県農山漁村課 係長）

暮らしと文化専門部会 講演会

日時：平成25年1月18日(金)
 場所：佐賀市保健福祉会館(ほほえみ館)4階視聴覚室
 議題：未定

会員 動向

特別会員

九州技術開発株式会社

佐賀県では、現在、主要プロジェクトである有明海沿岸道路の整備が進行中です。軟弱地盤上に約7mの高盛土で計画されているため、沈下・周辺地盤変位・地下水への影響等の問題があり、軟弱地盤対策が重要なポイントとなっています。当社も、測量・調査・設計業務等において、携わってきているところです。これからも地元企業として主要プロジェクトに携わり、地域の社会資本整備に貢献していきたいと考えています。



LTI ジャーナル Vol.14, No.2 発行

英文機関誌「Lowland Technology International」Vol.14, No.2, December 2012 が発行されます。下記の7編が掲載されており、ウェブサイトでも閲覧可能です（会員限定）。



Title	Authors
INVESTIGATION OF TENSILE AND SOIL-GEOTEXTILE INTERFACE STRENGTH OF KENAF WOVEN LIMITED LIFE GEOTEXTILES (LLGS)	S. Artidteang, D.T. Bergado, T. Tanchaisawat and J. Saowapakpiboon
EFFECTS OF URBAN DEVELOPMENT AND SPATIAL CHARACTERISTICS ON URBAN THERMAL ENVIRONMENT IN CHIANG MAI METROPOLITAN, THAILAND	M. Srivanit and K. Hokao
THE RELATIONSHIP BETWEEN SOUNDSCAPE AND CHINESE CULTURE: A CASE STUDY OF THE WEST LAKE SCENIC AREA	J. Ge, M. Guo, Y. H. Zhu, J. Jia, and Y. Zhang
A LINEAR PROGRAMMING MODEL FOR TIDAL RIVER WATER QUALITY MANAGEMENT	N. Inyim and W. Liengcharemsit
DEVELOPMENT OF PHYTOPLANKTON MODEL WITH APPLICATION TO SONGKHLA LAKE, THAILAND	S. Suwanidcharoen and W. Liengcharemsit
THE STUDY OF URBANIZATION PATTERNS AND THEIR IMPACTS ON ROAD SAFETY	P. Iamtrakul and K. Hokao
CURRENT PRACTICE ON FOUNDATION DESIGN OF HIGH-RISE BUILDINGS IN BANGKOK, THAILAND	K. Amornfa, N. Phienwej and P. Kitpayuck

編集後記

原研究員に代わりまして、本号よりニューズレターの編集を担当することになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます（木梨）。

編集担当：木梨，三島（sk0645@cc.saga-u.ac.jp）